

知床半島先端部適正利用エコツーリズム検討会議第二回部会会議

日 時：2019年9月9日（月）15時～

会 場：羅臼町役場二階庁議室

出席者：知床羅臼フットパスクラブ 高島代表、村田副代表
知床森林生態系保全センター 早川専門官
環境省羅臼自然保護事務所 高橋自然保護官
（公財）知床財団羅臼地区 田澤次長
知床羅臼観光協会 若林事務局長
羅臼町役場産業創生課 藤本係長、吉田主事

●課題への回答

- ・ 観音岩ルートがフットパスの定義に相応しい環境かについて
日本フットパス協会の定義では「昔からあるありのままの風景」を楽しむ。であるため、観音岩ルートは最適である。
- ・ フットパスルートの確立について
相泊から観音岩手前まで
- ・ ルート上の漁業者への了承、国有林の立ち入り、私有地への立ち入りについて
GPS でルートを取り、早川専門員に確認したところ、国有林に入る場所が数ヶ所あった。高潮などの影響で消失している場所があるが、敷地の境目には目印があった。
- ・ ルサ FH でのフットパス利用者への情報提供、説明について
情報提供はルサ FH および羅臼 VC で可能だが、どこまでの範囲でやるのか。フットパスにしたことによって、利用者の増加で、本来伝えるべき人や質が落ちることは避けたい。過去にフットパスにした地域で利用者数または増減の変化を把握している例はないのか。
- ・ どのような媒体で周知するのかについて
SNS や HP の利用をするが、規模を大きくすることは考えていない。
- ・ 怪我やヒグマ対策はどのようにするのかの対応について
怪我などした場合に、責任を環境省・林野庁・役場などがとることはできない。そうなるのであるなら、フットパス設立とは確実にならない。現在、先端部利用者にはルサ FH で【先端部利用の心得】などをレクチャーしている。そのため、フットパス利用者にも【先端部利用の心得】を周知させないといけない。フットパスという考え方に対して、【先端部利用の心得】を適用するのはいいが、それだどフットパスにする必要性があるのか。普段の先端部利用者との差別化になるのか。

●その他意見

先端部（相泊以北）は自然保護をする場所であり、人間の利用を活発に推進するものでは

ない。一方でフットパスは、人間を活発に利用させると相反する考え方である。その矛盾を
超えるための意義がなければ、フットパスにはできない。フットパスより、単発のイベント
などで利用する方が、利用はしやすいと思う。また、最初の足掛けとして、イベントで利用
する方が、今後に繋がる可能性はある。